



小澤洋介、三戸素子、P ヤング友の会ニュース

2003年3月17日発行 No.37

厳しかった冬もそろそろ春、桜の開花予想も発表されるこの頃になりました。

1月の「小澤洋介リサイタル」、2月の「クライネス・コンツェルトハウスOp.14」と、充実した冬のコンサートシーズンを、皆様お聴きになられたでしょうか。友の会会員の本野義雄氏と外谷千春さんからの便りと、音楽評論家の中村稔氏から頂いた私信をご許可を得てここに掲載いたします。

中村 稔氏よりの手紙

音楽評論家 中村 稔

小澤洋介様、三戸素子様

2月9日は大変ありがとうございました。いただいたプログラムを箆笥の上に置いて、さがしても見つからず、ようやく発見しましたので、お礼の筆をとる次第です。

三曲とも大満足でした。フィビヒの終楽章のコーダの熱い盛り上がりの明るいハシャギようで、シューマンやブラームスに代表された19世紀音楽のもう一つの真実を感じさせて頂きました。大いに啓発された一夜でした。

ショスタコーヴィッチも何年も前の記念祭で、確かとりに上げていなかった曲をとり上げて頂き、伴奏部というより、合奏部分に厚みを求めた作曲意図がはっきりと感じられ、ショ

スタコーヴィッチらしさを十分満足させて頂きました。

* こういう主流となるはずのプログラミングと再び出会えて本当に幸せでした。こうしたプログラムのリサイタルを、せめて年にもう一度聴かせていただけたらと思いますが、一度に集中なさっている慎重さが正しいとも思われます。

* 本当にありがとうございました。まだ書き始めるに到りませんが、ヴァイオリン音楽とヴァイオリニストについての本を二、三年先に出すつもりです。クライネスイズムについては、ぜひ書かせて頂きたいと願っています。モーツァルトのご成功をいのっています。

知られざる名曲をもっと聴きたい

友の会会員 本野義雄

ある作曲家は巨匠として栄光に包まれ、その作品は今日に至るまで演奏会で繰り返し取り上げられる。一方、他の多くの作曲家とその作品は忘れ去られる。私たちはそれを当然のことと受けとめているが、本当にそうなのか。1月26日、小澤洋介とラファエル・ゲーラが弾くレーガの第4番ソナタ（イ短調、op.116）を聴いてそう思った。

後で調べてみると、マックス・レーガが生まれたのは1873年、シェーンベルクより1年、ラヴェルより2年早い。43歳の若さで亡くなったのが1916年、ドビュッシーが亡くなる2年前だった。ほぼ同時代に活躍したあとの3人が、近代音楽史上不朽の業績を残し、後世に多大の影響を与えたのは周知の通りである。だが、芸術作品の価値は、歴史的役割だけで測りきれぬものだろうか。

僅か4～5曲を聴いた限りの印象だが、レーガの音楽の特徴は、ドイツ古典主義の伝統に依拠しながらも、極めて抑制され、内面に向かって沈潜したロマン的心情にある。ブラームスを一層地味にしたような曲想で、直ちに人の耳目を

惹きつける要素はほとんどないが、音楽に精神的内容を求める人には、ずっしりと聴き応えがある。ドイツ、オーストリアなどヨーロッパのごく一部では愛好家がいるそうだが、とくにレーガの作品を積極的に演奏しようという演奏家は残念ながら多くはないようだ。

* しかし、演奏会にもっと多くの「隠れた名曲」や「忘れられた名曲」を求める聴衆もいることを、演奏プロは信じてほしい。そういう曲を見つけ出し紹介するのは、彼らの重要な責務だともいえよう。あのバッハの「マタイ受難曲」でさえ、メンデルスゾーンが発見するまでは埃に埋もれていたのだから。

* その後、2月9日に行われたクライネス・コンツェルトハウスの演奏会は、ライネッケ、フィビヒという2人の「無名」作曲家と、ショスタコーヴィッチの知られざる佳作を紹介する、日本では類い稀な野心的試みであり、私たちを大いに楽しませてくれた。今後も3度に1度ぐらいは、他の追隨を許さないこうした挑戦を続けてくれることを期待する。

新春のチェロリサイタルを聴いて幸せ！

友の会会員 外谷千春

私事ですが、昨年暮れ左耳の鼓膜形成の手術を受け、退院して初めてのコンサートが、1月26日東京文化会館の小澤さん、ゲーラさんのリサイタルでした。グリーグ、レーガ、メンデルスゾーン、どれも素晴らしく、特に西澤健一さんの無伴奏チェロソナタは派生音まで美しく聞こえました。病み上がりの耳の保養になり、真冬に温泉につかった様な安らぎを感じたニューイヤーコンサートでした。

2月4日、立春の日は、三戸さんとクリスティーナさんの

CD、ベートーヴェンのソナタ「スプリング」を聴きました。ベートーヴェンも、実は中耳の(骨の)病気で言葉が聞き取れなくなったもの、自分の弾くピアノの音は聞こえていたようです。(江時久著「ベートーヴェンの耳」より)梅の花を見かけるようになったこの頃、ベートーヴェンさんが生きていたら、お二人の「スプリングソナタ」を聴いて欲しかったなあと思っています。

三戸素子のヨーロッパコンサート鑑賞日記

2月の後半に、ハンガリーとスイスに行ってきました。この秋のリサイタルに向けてピアニストのクリスティーナのところでのリハーサルをするのが主な目的でした。

ブダペストでは充実したリハーサルの後、毎晩コンサートも聴きに出かけました。オーケストラの演奏会が二つと室内楽が一つ、そしてハンガリーの作曲家による音楽実験の講座です。

音楽実験の講座は、音楽教育で名高いコダーイのお膝元らしいもので、作曲の教授が説明をしながら、演劇科の男女学生達(つまり人前に慣れていて、音楽は素人)に一定のリズムで手を叩かせたり、声を出させたりしてそれが何故か一曲になるという実演でした。リズムのコンビネーションと色々な高さの声による響きで、シンプルにも複雑にも音楽としてちゃんと成立するのを目の当たりにし、音楽の原点を再発見した思いでした。

そしてこの講座が行われた会場にも強い印象を受けました。そこはブダペストの、パリのカルチェラタンのような区域にあるフィルムセンターのようなところだったのですが、夜だったせいか薄暗いロビーのセルフサービスの学食のようなバーには、煙草のけむりと共に音楽家や画家や写真家達が、インテリ学生や市民に交じってたむろしていました。そして毎日おもしろそうなフィルムや催しが開かれているようでした。とても活気があり積極的で自由な空気がみなぎっていました。こんな気楽で文化的なたまり場があるブダペストという旧共産圏の街がちょっとうらやましくなりました。

オーケストラのコンサートはハンガリー国立交響楽団とハンガリー放送交響楽団の二つを聴きました。バルトーク、コダーイのハンガリープログラムと、ハンガリー人の若手ヴァイオリニストによるブラームスのヴァイオリン協奏曲をメインにしたプログラムでした。この二つからはハンガリーの音楽界の実力と、過去の豊かな遺産と未来への橋渡しが着実にできていることが感じられ、脱帽の思いでした。特に25才のヴァイオリニストは、たくさん練習したり教わったりして見事に演奏できる、というだけでなく音楽に対する深い理解力や若々しい表現意欲にあふれ、今の最先端の演奏解釈を取り入れた、立体的な演奏でした。こうした音楽家によって、また世界のクラシック界、ヴァイオリン界が進歩していくのだと嬉しさがわいてきました。

そして室内楽のコンサートは、国立ラジオのクラシック専門

放送局「バルトーク」の公開生放送で、高度にもかかわらず無料の一般市民が聴衆という生き生きしたコンサートでした。

その後スイスに行き、そこではチューリヒ北部のヴィンタートゥアという中都市で弦楽四重奏のコンサートを聴きました。このヴィンタートゥアという街は中世より産業が栄え、文化の面も有名な絵画のコレクションや、フルトヴェングラーやクララ・ハスキル等々そうそうたる演奏家が活躍した音楽協会があるところなのです。

そのヴィンタートゥアの市立オーケストラには、レベル向上維持のためコンサートマスター以下、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの首席奏者達が弦楽四重奏団を組んで、定期的にコンサートをするという伝統があります。その晩はショスタコーヴィチとベートーヴェンの後期の作品という、洪くて高度なプログラムでしたが、本当に立派な演奏でした。ヴィンタートゥアの市民はそんなに大きな町でもないのに、自前のオーケストラの自前の演奏家達で、こんな一流のプログラムを生で聴けるのです。何と贅沢な人々だろうと思ってしまいました。それは世界最高といわれる弦楽四重奏団のCDを買って論じるのとは全く違った音楽の楽しみ方でした。

身も心もすっかり暖まり満ち足りた思いで、私は成田に帰ってきました。

News! News! News!

昨年1月のクライネス・コンツェルトハウスOp.12「十字架上の七つの言葉」が「音楽の友コンサートベストテン2002」に評論家・渡辺和彦氏により、去年一年の多くのコンサートの中から推挙されました。

新規会員を随時募集しております。知人、ご友人の方々に友の会をぜひご紹介下さい。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座 00260-1-13926

加入者名

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

新規入会ご希望の方はその旨お書添えの上直接年会費をお振込下さい。



今後の主なコンサートとスケジュール

4月12日(土) 第11回 円覚寺ピアノ三重奏の夕べ

～サンクト・フローリアン三重奏団
骨髄バンクキャンペーンコンサート～

- ・モーツァルト：ピアノ三重奏曲 ホル長調 K542
- ・西澤健一：ピアノ三重奏曲 第3番 (委嘱作品)
- ・ブラームス：ピアノ三重奏曲 第1番 口長調

5pm 開演 鎌倉 円覚寺 方丈 前売 ¥3,000 当日 ¥3,500

問：神奈川骨髄バンクを考える会 TEL.0463-21-0010

4月13日(日) サンクト・フローリアン三重奏団

～モーツァルト：ピアノ三重奏曲 全六曲演奏会～

東京文化会館 小ホール

- 第1回 2pm開演 モーツァルト：ピアノ三重奏曲 第1番 第3番
第2回 6pm開演 モーツァルト：ピアノ三重奏曲 第4番 第6番

入場料 各 ¥5,000 2回連続券 ¥9,000

出演：サンクト・フローリアン三重奏団 三戸素子 / 小澤洋介 / フィリップ・ヤング

問：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218

6月13日(金) 三戸素子 無伴奏ヴァイオリンの夕

～J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリンパルティータ 全三曲演奏会～

自由学園 明日館 (池袋西口より徒歩5分)

フランク・ライトによる重要文化財指定の歴史的建造物です。

7pm 開演 入場料 ¥4,000

問：三戸素子 TEL.042-945-6326

EM-# motoko@cool.interq.or.jp

7月20日(祝) 東京文化会館室内楽シリーズ

クライネス・コンツェルトハウスOp.15

・ベートーヴェン：七重奏曲 ほか

出演：ヴァイオリン：三戸素子 / ヴィオラ：二宮隆行 / チェロ：小澤洋介 /

コントラバス：前田芳彰 / クラリネット：山根公男 /

ファゴット：武井俊樹 / ホルン：藤田乙比古

東京文化会館 小ホール 2pm 開演 ¥4,000

問：ハラヤミュージックエンタープライズ TEL.03-3587-0218

クライネス・コンツェルトハウス事務局 FAX.042-945-6329

友の会割引有

友の会割引有